

書名	「リストラテ イ・ルンガ」堀江純一郎の手打ちパス		著者名	堀江 純一郎			
出版社	誠文堂新光社	ISBN	9784416713020	本体価格	¥2,500	発売	2013/11/2
内容	ミシュラン一つ星の名店シェフが作る、とっておきの味！ 和の食材をいかした、本場イタリアのパスタレシピを約100品紹介						

書名	日本の古寺を知る事典		著者名	渋谷 申博			
出版社	三笠書房	ISBN	9784837982302	本体価格	¥590	発売	2013/11/22
内容	全国の有名なお寺50箇所を豊富な写真つきで紹介。また、知っておきたい仏教や寺院の基本も解説。お寺巡りのガイドにぴったり！						

書名	古代の暦で楽しむ 万葉集の春夏秋冬		著者名	東 茂美			
出版社	笠間書院	ISBN	9784305707055	本体価格	¥1,500	発売	2013/11/11
内容	万葉歌の新しい楽しみ方を伝授。万葉の時代は大陸の暦法が用いられる暦の時代でもあった。万葉歌を当時の暦のなかにすえて鑑賞する。						

書名	わが萬葉集		著者名	保田 與重郎			
出版社	文藝春秋	ISBN	9784168130076	本体価格	¥1,940	発売	2013/12/18
内容	「萬葉集」が息づく土地で生まれ育った著者が「萬葉集」に詠みこまれた時代精神と土地の記憶を味わい、それが遺された幸せを記す						

書名	古代日本と朝鮮半島の交流史		著者名	西谷 正			
出版社	同成社	ISBN	9784886216472	本体価格	¥1,800	発売	2013/12/25
内容	旧石器時代から、奈良時代・統一新羅・渤海時代にかけての日韓交流史の有り様を、北東アジア史的視座の下に分かり易く解説する。						

書名	行基と大仏		著者名	金子 邦秀／西戸山 学／黒須 高嶺			
出版社	岩崎書店	ISBN	9784265016556	本体価格	¥1,800	発売	2014/1/27
内容	奈良時代、時間と人手とお金をかけて大仏をつくった聖徳天皇と大仏づくりに協力した僧行基。それぞれが大仏にこめた思いとは。						

書名	法隆寺の正体		著者名	林 順治			
出版社	彩流社	ISBN	9784779119644	本体価格	¥2,300	発売	2013/12/12
内容	法隆寺を建立した聖徳太子は実在したか？ 現法隆寺は推古時代に建立されたのか、それとも天武天皇のころに造られたのか？ 聖徳太子が“大王蘇我馬子”の分身だとすれば、誰が虚構の聖徳太子をつくったのか？ 史実と虚構の入り混じった物語「記紀」を選び分けながら、1300年余の法隆寺と聖徳太子の秘密のヴェールを剥ぐ。						

書名	橿原考古学研究所論集 第16		著者名	奈良県立橿原考古学研究所			
出版社	八木書店	ISBN	9784840626002	本体価格	¥18,000	発売	2013/12/中旬
内容	大和を掘る！最新の発掘調査をふまえて論考！						

書名	室町幕府と地域権力		著者名	大藪 海			
出版社	吉川弘文館	ISBN	9784642029179	本体価格	¥10,000	発売	2013/12/6
内容	北畠氏や興福寺を事例に、幕府と直結して地域支配をしていた非守護地域権力を分析。新たに「室町幕府—守護・知行主体制」論を提唱。						

書名	古代天皇への旅		著者名	和田 萃			
出版社	吉川弘文館	ISBN	9784642080996	本体価格	¥2,800	発売	2013/12/25
内容	ワカタケル＝雄略から推古まで。『万葉集』や記紀を読み解き、現在に伝わる景観や地名など古代の名残を訪ねる。						

書名	万葉集の心を読む		著者名	上野誠			
出版社	KADOKAWA	ISBN	9784044054083	本体価格	¥760	発売	2013/11/22
内容	いにしえびとの声、飛鳥・万葉の和歌。その歌々が、今を生きる私たちに語りかけてくるものとは―。家族と愛情、笑いと宴席、女性と労働、都市と神々など様々なテーマのもと、現代に通じる「暮らしの声」にあふれた歌を多数紹介。男女の慕情とかけひき、風流な都の文化、いにしえからの日本人の自然観を生き生きと伝える万葉歌の世界を、最新の研究を背景に深く学び、味わい、愉しむ。時を超えて万葉びとと対話する、「体感する万葉集」!						

書名	私の万葉集 1		著者名	大岡信			
出版社	講談社	ISBN	9784062902120	本体価格	¥1,500	発売	2013/11/11
内容	詩歌の実作者が書いた『万葉集』の鑑賞。八世紀後半に成立した『万葉集』は、きわめて難解でありしかしまだ我々の心に残る多くの親しまれた歌がある。その膨大な数の歌を、巻一から巻二十まで通読した大岡信の鑑賞には、日本の美学の起源をみる。『万葉集』を現代人が味わい楽しむ「生きた」歌集として魅力ある読み方をするために現代詩人が挑んだ全五巻。						